

## 総社市教育委員会会議録

- 1 開 会 平成27年9月25日 午後1時27分
- 2 閉 会 平成27年9月25日 午後3時26分
- 3 場 所 保健センター2階 資料展示室
- 4 出席又は欠席した委員

### 出席委員

委員長	米 谷 正 造
委員長職務代理者	林 直 人
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	下 山 洋 子
委 員	三 宅 眞砂子
委 員（教育長）	山 中 榮 輔

- 5 会議に出席した者

教育次長	矢 吹 政 行
参与兼庶務課長	三 村 和 久
学校教育課長	東 長 典
こども夢づくり課長	河 相 祐 子
生涯学習課長	柚 木 均
文化課長	尾 崎 啓 一
学校教育課主幹	北 川 和 美
学校教育課主幹	風 早 潤 一
庶務課主幹	西 村 佳 子

- 6 会議録署名委員

林 直 人	小鍛治 一 圭
-------	---------

- 7 付議事件

議案第20号 総社市教育委員会表彰について

原案可決

- 8 議事の概要 別紙のとおり

開会 午後1時30分

**米谷委員長** ただいまから教育委員会を開会いたします。

この教育委員会には、議案1件が付議されております。

では、まず、会議録の署名委員についてであります。会議録署名委員は、会議規則第19条の規定により、出席委員中、林委員、小鍛冶委員の2名にお願いします。

**米谷委員長** では、議案第20号「総社市教育委員会表彰について」事務局から説明願います。

**各課長** 【事務局説明】

**米谷委員長** ただいま事務局から説明がありました議案第20号について質問はありませんか。

【質疑・答弁】

**山中教育長** 児童教書展はほとんど高木聖雨さんがやっただいていていますし、ご寄付もいただいています。

**米谷委員長** 他にご意見・ご質問等ありませんか？

**米谷委員長** 今井さんは吉備路マラソンの豚汁を前日からすごく準備していただいて、いつもありがたくもらっています。

**米谷委員長** お諮りいたします。

議案第20号については、原案のとおり可決してよろしいか。

(異議なし)

**米谷委員長** ご異議がないようですので、議案第20号については原案のとおり可決しました。

**米谷委員長** それでは次に、教育長の報告をお願いします。

**山中教育長** 【教育長報告】

まず、誰もが行きたくなる学校づくりの夏の集中研修を延べ四日間やりまして、県内外含めて大勢の方に来ていただきました。

それから、8月25日に全国学力テストの結果が公表されましたので、後ほど東課長の方からご報告いたします。

それから、問題行動について、全国の報告がありまして、小学校は、横ばいで0.43。県が、0.46で少し増えています。国が0.39で、0.3ちょっと増えている。中学校が、総社市は1.97。県が2.40。0.15昨年度よりも減っています。国が2.76で、0.07昨年度より増えている。国が少し増加傾向で、岡山県は少し、総社市全体としては県平均よりは低い、そんな状態です。

それから、英語特区で、青山学院大学のボランティア6名に来ていただきましたが、ハートのいい子ども達が多かったです。

それから、オーストラリアのホームステイをやりまして、昭和地区以外は中学生14名。昭和地区は、小学生が6年生5名と、中学生が2名。今回、小学6年生もなかなか頑張っていたということでした。昭和中学校の女の子2人は、非常に小学生の面倒をよく見たそうで、

そういう意味ではピアサポートができたということでございます。

**米谷委員長** はい、ありがとうございました。何かご意見・ご質問等ございましたらお願いします。

**【質疑・答弁】**

**下山委員** 問題行動の、小学校は横ばいですが、国と県のその数は横ばいなんですか？上がっているんでしょうか？というのが、中学校が、総社市は下がっているけれど、国とか県が上がっているというのがちょっと気になったもので。小学校の国と県がどういう状態なのかを教えてください。

**山中教育長** 不登校は、平成25年度の小学校については、市は、0.43。平成26年度は0.43。平行です。県は、平成25年度は0.43。平成26年度は0.46。国は、平成25年度は0.36。平成26年度は0.39です。中学校は、市が、平成25年度は1.95。平成26年度は1.97。県は、平成25年度は2.55。平成26年度は2.40。国が、平成25年度は2.69。平成26年度は2.76です。

**下山委員** はい、ありがとうございました。

**米谷委員長** 次に、「報告事項等」に移りますが、まず「8月定例市議会報告について」事務局から説明をお願いします。

**矢吹教育次長** 【事務局説明】

**米谷委員長** ただいまの事務局の説明に対するご意見等はありませんか。

**【質疑・答弁】**

**米谷委員長** ふれあい広場は、僕も年に何回か清掃とか行くんですけど、本当に車を停めるのが大変ですね。

**矢吹教育次長** 前にお借りしていたところにソーラーパネルが引いてあって、イベントの時にあまり貸していただける部分がないので、ペタンク場のところの温室のペタンク場をちょっとずらせば、4、50台できるなと思います。それと、奥のサッカー場の所を抜けて、左側に緑地帯がありますので、あそこの池垣を撤去していく形で斜めに止めて、そこにも100台程度確保していきたいなということで考えています。

**米谷委員長** 次に、「平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について」事務局から説明をお願いします。

**東学校教育課長** 【事務局説明】

**米谷委員長** ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

**【質疑・答弁】**

**米谷委員長** 学習は前のものを引きずってくるので、それを見ると、6年生の時からは、3年後、中3になった場合には上がってきているというような傾向にあるというご説明だったと思いますがいかがでしょうか？

**林委員** 朝の学習であるとか、宿題の量であるとか、放課後の自主学習的な取り組みである

とか、市内の学校はどうなっているのでしょうか。また、校内の研修でどういうテーマで取り上げて、何を目指していつているのかということは、多分各学校違うんじゃないかと思いますが、その辺で何か掴んでいる範囲で教えていただけたらありがたいなと思います。

**東学校教育課長** 県の事業の放課後学習サポートの事業を利用して、取り組んでいる学校もあります。東中以外の3つの学校は事業を活用して、主にテスト期間中になりますが、中間テストや期末テストの期間、部活動がなくなりますので、毎日のように子どもを残して、補充的な学習に人をお願いして来てもらって、ボランティアでやられているというのも聞いています。

誰もが行きたくなる学校づくりの研修に関しては、生徒指導的なより良い授業のあり方ということでの研究は進んでいますが、教科本来のねらいをいかに達成するかという部分はやや不十分かなという、校長先生方の声がありますので、その部分も改めて重点をおかないといけないと思い、今振り返りを行っています。

**山中教育長** 東中があまりよくなかった理由は、変化点があるでしょう。それまでずっと2年間やってきた放課後テストや、総合学力をチェックするテストなどの取り組みがなくなっている。それから、総中学区がいいのは、家庭学習時間はこれぐらいやって下さいというのを各家庭に言っているのと、ある程度時間をとらないとできないような宿題の出し方をしていて。それ以外にも色々と対策を実施しています。ただテストを何回もやらせるということだけではなく、総合的に考えていかないと。これを見てもらったら分かるんですけど、国語Bが皆悪いんです。いいのは一校だけです。ということは、総社市全体の国語の教育の仕方にやはり何か欠陥があるんです。文章の読み書きの部分が弱い。書けないからきちっと読めない。そういうことをトレーニングしていくということですね。むしろそういったディスカッションをこれからやって欲しいんです。それで、今回はその中身がどうなっているのかの解析を東京書籍に頼んで、データベースを全部先生方が見られるようにしたんです。

**風早学校教育課主幹** 東京書籍に依頼をいたしまして、この問題はどういう出題をされていて、こういう回答であったとかっていうものを、一問一問解説をしているものを、WEB上で見ることができます。校長先生宛にメールでお送りしているところです。それを見ると、こういう問題ができなかったら、ここが欠落しているからできていませんよというように解説されています。自分の学校だけを見るのではなく、市教委バージョンをお送りすることで、他の学校はどうかなというのも雰囲気的には掴まえることができるようにしています。

**山中教育長** 東京書籍の確かめテストを色々やっているんですが、1人1人の子どもがどこが弱いのか、どこが伸びたのかということが分かることがすごく大事で、それをクラス別に見れば、授業のやり方をどう変えたらいいのか、どこがよかったのかというの、かなり具体的に分かるわけです。そうしてデータベース化したものをフィードバックして、先生方がやり方を確認していかないと。個別の子ども達で、裾野の方の子ども達の理解度を上げていかないと、漢字もちゃんと書けない、九九もできないという子どもがまだいるんですよ。そ

ういうことを先生方がちゃんとチェックしきれていない。平均値論ではなく個別の話ですから。ちょっとお金はかかるんですけども、そういう意味でデータベース化しないといけないと、東京書籍にお願いしました。特に岡山県は、国語Bが弱いんですよ。つまり文章を書かない、読むことはできるが、理解度がどこまでいっているかという、長文になると読みきれないという傾向がありますので、データベース化するとそういうことも分かってきます。

**林委員** 今回、小規模の小学校が割りと上位に来ていることは、単純に考えれば、全市30人学級作ればいいじゃないかというような発想になりますけども、そうではなくて、常盤小学校のように、切磋琢磨というか、そういう協同学習が非常に効果のあった取り組みかもしれない。何故常盤小学校は、今まで割とうまくできなかったのができるようになったのかという様な、各学校の取り組みを参考にすればよいと思います。先ほど教育長が言われたように、小学校でできなかったものが中学校に行ったらできるようになるかといったら、なかなかできないです。だから、小学校は小学校で責任を持ってやりましょうという話です。そうしないと、中学校に上がった時に、おそらくドロップアウトするというのは当たり前の話なんですよね。今一生懸命されていることだろうとは思いますが、何かその辺のところを、もう一歩進んで、じゃあどうやっていったらいいのかということ、考えていった方がいいと思います。

**山中教育長** 今はデータのことだけを申し上げたんですけども、仕組みとして、今中学校区毎に学校提案型事業のきらめき交付金を渡しているわけですが、それによって、小学校と中学校の先生方が最近よく集まっているいろんなディスカッションをされています。東中学校区でもかなりやられていますが、一番うまく機能したのは総中学区だと思います。会うことによって、中学校に、できない状態のまま送るのはいかがなものかという意識が先生方の中に生まれてくる。中学校の先生方も、小学校の時に算数のこういうやり方が駄目だとか、そういうコミュニケーションができる。もう一つは、県が、数学の専科とか連携加配をしてくれて、例えばその先生が数学を各小学校で教えると、それはコミュニケーションにもなるし、スキルアップにも繋がります。

もう一つ、常盤小学校は、3年前非常に悪かったので、数学の専科とか、生徒指導とか、少し余分に配置してもらったんです。少しですけど余裕のある時間をうまく使って、先生方が授業のためのいろんなディスカッションをしたり、準備をしたり、お互いのコミュニケーションを図ったりするチャンスが増えたんだと思います。前の校長先生がやられたんですが、そういう成果が出てきました。だから、人を入れるということと、仕組みと、トップマネジメントと、これが3つうまく揃わないと、上手くいかない。この上手くいった例がやはり、総社中学校であり、常盤小学校。その逆が東中です。確かに不幸な事故はありましたが、大事な仕組みを全部捨ててしまった。これはマネジメントができていないということです。そういうところまで教育委員会がチェックするのかどうかという、これもかなり大変なので、校長先生の育成、トレーニングをやっていかないと、校長に突然なっても、力が

発揮できない人もいるわけです。そういうことを今県に言っています。県には、大規模校とか重要校など、大きなマネジメント能力の必要な所に、トレーニングをした先生を持っていくことと、管理職育成のためのシステムをちゃんと作らないと駄目だと申し上げていますが、具体的には何も動いていない。OJTをやらないといけないわけです。OJTをやろうと思うと、少し人の余裕を入れないといけない。その辺の話は、知事はよく理解しているので、今、加配が増えてきているんですよ。

**下山委員** 一番最後の小学校のところで、算数Aの方は、先生方の努力のおかげで、個別指導や補充学習により、基礎・基本的なことがどんどん上がっているなど感じますが、応用問題が、国語のA、Bの差より算数のA、Bの方の差が激しいということで、算数Bの問題を解く部分に力が入れば、また点が上がるのではないかと思います。それから、東中、西中が前よくて、今回小規模、総中、昭和中がいいのは、個別指導や、宿題をしないといけない体制とか、家庭との連携で、これだけはしないといけないということが、保護者にもちゃんと分かり、チェックをしながらやっているということが、そういう学区全体での取り組みも関わることかなと感じました。

それから、小学校6年生の学習時間とゲームの関係で、だいたい小学校は10分×学年＋10分で70分だと6年生は感じているので、割とどの学校も取り組んでいますけれど、まだそこまで達していない学校も多いと感じています。小学校の場合は、学校と家庭でチェックしながらやっていて、チェック週間があるので、皆さんの連携で学習時間が増えていったと感じています。それから、学力向上の要素で、授業改善の目標やまとめについては、総社市はきちっとできていたり、学校では落ち着いた環境作りができていますが、家庭への連携の呼びかけということは学校での最大の問題点じゃないかを感じているところです。

**米谷委員長** 体力の方の話が学力に結びつくかどうかよく分からないんですけど、平均体力が下がり止ったとか、上がりだしたとかいう話は一般的にされるんですけど、その上がった下がったの中身はどうなのかというところをちゃんと見ておかないといけない。例えば、平均が上がったとしても、低体力の子はそのまま、体力レベルが高い子が少し増えても平均は上がるし、逆の場合でも上がる。だからこの学力についても、平均はここなんですけど、それぞれの子はどの辺りにプロットできるのかということです。学校の教育に関しては、家庭学習の場合、本当にテレビゲームやっているのか、宿題や家庭で学習している時間が少ないかどうかというのは、ちょっとこれからは読み取れないわけです。だからその中身を検討する必要があるんじゃないかなと思います。例えば相関を見るとか分散を見るとか、そういうところで、多分それぞれの学校の中の平均ではなくて、その中身が見えてくるような気がするんです。そうすると、家庭での学習に対する対応の仕方を、何か教員の方から関わられる部分だけ関わるとか。そういう仕方でもできるのかなあ思いました。

**山中教育長** 勉強しない子の比率はある程度あり、この子達に焦点を当ててトレーニングしないといけない。宿題を出してもやってこなくて、先生は注意するけれども注意で終わり。

残してやらせるまではしない学校と、やらないと帰さないという学校と、そういう差はあるんですよ。そういうことを、教育委員会からは指示したくないので、今、校長会で、校長先生に各学校のいいところを発表してもらっているんですけども、あんまり人のことを刺激したくないということがあるので、何かちょっと迫力がないんです。だから個別に話をせざるを得ないんです。自分でそう思わないと、長続きはしませんし、おそらく熱意を持って自分の部下の先生方にも説得はしないでしょう。

生徒1人1人のことを個人データベースで、どこまで育っているのかというのをチェックする。そして、少しお金がかかりますけども、市内のテストである程度何回かやって、全部それを開示して、そのクラスのもの全部見えるようにする。校長先生は自分の学校が全部見えるようにしないと、手間ばっかりかかるわけですよ。いくらいいことをしても、その気にならないとやりません。やっぱり熱意のある中学校校長がいないと、なかなかまとまっていけない。

心の問題も一緒です。きちっと教えられる先生方を、できるだけ多く作る。

学力テストの結果でフォローしてチェックして、これが一番分かりやすいですよ。

**東学校教育課長** 総社っ子輝きプランが、3年計画の最終年度に入っていて、そのいろいろな指標を示すということで、目標値を掲げていますが、その一つに、平均正答率が40パーセント以下の子どもを、全体の1割以下にするという数値目標を掲げていて、2割は切りかけている状況にはあるんです。その状況をもっと教職員の先生方に意識していただいて、どの子が平均正答率4割いっていないのか目を向けるように、もう一度確認しないといけないかなと思っています。ホームページにも出して掲げていますが、度数分布によって、子どもがどの位置にいるのかというのを把握するのは大切なことだと思っています。

**米谷委員長** はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか？

**林委員** まさに、どういう子どもを作るのかというところを先生方が共通理解をして、それに向かっていろいろアイデアを出していくことは、学校経営の基本じゃないかと思います。それでももちろん支援が必要であれば、教育委員会が予算とか色々なことに手立てをするという。教育方法には介入しないというのが大原則ですから、先生方がこれをやりたいと思いついて、それをやろうというのが、一番先生方もやる気になるんじゃないかという気がいたします。

**米谷委員長** どうもありがとうございます。また何かありましたら最後にでも。まだ報告事項がたくさん残っておりますので、またご意見いただけたらと思います。

**米谷委員長** 次に「中学生の海外ホームステイについて」事務局から説明をお願いします。

**東学校教育課長** 【事務局説明】

(引き続き、「英語特区の基本方針について」、「新本・池田地区の教育特区の検討について」、「教科書採択に係る資料の公開について」説明を行った。)

**米谷委員長** はい、どうもありがとうございました。三点、今報告があったと思います。ま

ず、昭和地区の英語特区の基本方針についてですが、一つずつちょっと、ご質問・ご意見いただこうと思いますが、これにつきまして、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

【質疑・答弁】

**林委員** 特別支援学級への入級を希望するというのは、どういう理由なのですか。地元の学校でもいいんじゃないかと思うんですが、何故昭和小学校の特別支援学級への入級なのかという感じもするし、それを理由に転入を認めるというのは、英語特区の主旨とは違うんじゃないかと思うんだけど、その辺はどうなんですか？

**東学校教育課長** はい、転入されたい方は、英語をしたい、英語を子どもに学ばせたいということで来られるわけで、自閉情緒学級は、基本的にその教科の内容等はその方向でやるので、それで認めています。特別支援学級の子だからということでお断りするのには理由にはできないと考えています。ですから、英検を目指すとか、そういうことを前提に考えて、知的の学級の場合は、そこは難しいので、そこについて受け入れということではなくて、自閉・情緒学級ということですよ。

**林委員** でも、保護者の方は別の意図で入級を希望しているわけですよね？。それで教育支援委員会にかけるわけですよね？

**東学校教育課長** はい、そうです。

**林委員** そうしたら、保護者はどういう気持ちでやっているのかなと思います。

**下山委員** 私もちよっとそこが引っかかっていたんです。保護者の希望で、特別支援学級でその子なりに英語の力をつけたいということは分かりますが、その子どもの昭和に行く前の学校の特別支援学級の人数、規模などちょっと知りたかったんですけど。

**東学校教育課長** はい、それぞれの子どもの前の学校のことは、すぐには手元にデータがないので調べてみます。保護者の方は、昭和小学校という学校の環境であるとか、規模とか、存在する地理的な場所であるとか、そういうところを非常に気に入られて、同じ特別支援学級でも昭和小の特別支援学級にいたら、やはり、少人数のこじんまりした中で、自分の子どもの成長・発達により良く見込まれるんじゃないかという思いで来られる方も多いです。

それから、放課後のくらしとか、その生活で、「おひさま」の存在も大きいと思います。そういう環境の中で育てたいという保護者の方で、大人数の中でというのが苦手だなあとか、子どもにとってはしんどいだろうなあと思う保護者の中で、英語に思い入れがある方が、昭和小を目指しているということが多いのかなあと思っています。

**林委員** 落ち着いた環境の中でといっても、今度はそれこそ1クラスが7人、山8人になってきて、決してそれは、イメージしたような学級では多分なくなってきますよね？

それから、カリキュラムは、情緒の場合は通常の、例えば英語の時間数とかいうのは同じにしてあるんですか？

**東学校教育課長** それに準ずる形なので、基本的にはやります。

**林委員** 同じ時数をやっているの？



**東学校教育課長** はい。それから、その時間は交流という形でいく子どもも多いと思いますし、他の学校では受けられない英語教育が受けられるわけですので、そこを望まれるのかと思います。

**北川学校教育課主幹** 基本は今課長が仰ったとおりで、あとは実状に応じるという部分が自閉情緒の場合は大変大きいので、この子はこのぐらいまでいける、いけないということを常にやりとりをしながら取り組んでいます。大規模な自閉情緒のクラスというのは、1クラス1クラスでてんやわんやになっているのが現状ですが、昭和小学校の規模でありますと、まだ、7人、8人という中で、このくらいがケアがしやすいということ、一早く情報としてキャッチをされた保護者の方が魅力に感じているという部分もあると思います。授業は準ずるので、通常学級と同じようなことをする。だけど、往々にしてできない場合がたくさんあるけれど、昭和はかなりそれに近い形をとれる環境だと保護者が判断しているということです。

**林委員** 要するに、教室がないから歯止めをかけようという話ですかね？

**東学校教育課長** 物理的にです。

**下山委員** 通常学級に希望で入った子の中に、例えば英語じゃなくて、ほかの理由で入っている子っていますか。

**東学校教育課長** いろんな事情があるかもしれませんが、英語がしたいと希望をして申請されています。ただ、今後微妙なのは、通常学級に在籍するために支援を要する子なんです。その子達については、教育支援委員会の判定を、一つの判断基準にしたいと思っています。要するに特別支援学級には限度があって入れないのは分かっているので、通常学級に入れて下さいと言われた場合に、そのお子さんは、よく確かめると、教育支援委員会で特別支援学級が適であるという判定が出ているとすれば、それはちょっとお受けできませんとしなければいけないと考えています。

**米谷委員長** 事情はいかにせよ、英語特区で英語を学びたいという基本的なスタンスで応募されてくるわけですから、それを物理的に許す限りはできるけれど、物理的に許されないところでの歯止めが必要なので問題になってきていると。

**小鍛治委員** 私もいろいろ相談を受けたんですが、昭和の方は行きやすいけども、維新まではちょっと送り迎えが大変だと、そんな理由もあったと思います。ただ、親の希望としては、大規模校に入れるよりは子どものためになるんじゃないかという望みを持っているので、英語を希望されていない親御さんもたくさんいると思います。スクールバスみたいなのところもちょっと考えてあげればいかなと思います。

**米谷委員長** 例えば、優先順位は学区内が優先順位にされるわけですが、その枠が余っている場合で学区外の応募者が多い場合は、どう仕分けるのかということまで考えておく必要があるのかなと思ったんですが。

**山中教育長** それは抽選しかないですね。

**米谷委員長** 公平に抽選。

**山中教育長** 維新小はまだ余裕がありますからね。維新小は50パーセントいっていたらとても無理なので、少しゆとりを持ってやらざるを得ないと。だから維新と昭和はちょっと考え方を変えないといけないかもしれないですね。昭和は制約条件はハードです。そのハード以上に入らない。それ以上行きたい人は維新に行って下さいということですよ。

**米谷委員長** この後の新本特区もそうですけど、学校毎に対応方法を考えていかないと。

**山中教育長** 新本についてはもう、アクセスは全く考えていません。

**米谷委員長** 例えば、同じく状況が、来年、再来年には新本とか池田とか新たな特区の所で起こる可能性もあるわけですよ？

**山中教育長** これは地方創生とセットでやっているわけです。本当は英語特区というのを広げていかないといけない。3年後には全部英語になりますから。昭和が何故スタートしたかという、何回も申し上げますけども、小中一貫校。それと、コミュニティスクールとか、地域連携型。それから、地元の人達が、人を移住させたいと。自分達の所から出て行くことを減らすのではなく、戻ってくるだけでなく、外から人を呼び込みたい。新本・池田はよく聞いていませんけども、昭和のように外から人を受け入れたいというところまでのコンディションや受け皿はないわけです。もし人をもっと呼び込んで移住させてもいいと言うのであれば、それは市と一緒に考えるべきことです。今のところ、スクールバスは考えていません。新本と池田は、3年後にスタートする英語教育を前出しするということです。昭和は全然違うわけです。それよりもう一步上のレベルのものをねらうということと、幼小中連携校、コミュニティスクールと、3つ重なっているわけです。だから全くねらいが違いますから、市長とも話しているんですけども。そこまでの手当てはしません。維新小はちょっと別ですけどね。本来は、サポートすればそこに人が増えるという定住が目的なので、駅と学校の区間をアクセスするものはないですから、そこはよく議論しないといけないところだと思っています。

**米谷委員長** 次にも関わってくるかと思いますが、では、新本・池田地区の話も出ましたので、この教育特区の決定について、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。

**林委員** 教育課程の特例校という申請をして、それを認めてもらおうと、英語もやりましょう、そして音楽はどうなんだといった時に、総枠は決まっているので、その中で一体どういう風にして教育課程を組むのかというところに、関心があります。先ほど言った、学力で国語、算数それから理科ということと、英語を充実すると英語の時間が増え、それに伴って、何かを最低限まで減らすという形になってきた時に、どういう風に考えていけばいいのかということは、今一步よく分からないんですけども。それから、山田幼稚園は西小ですよ？それで昭和小のところは、昭和幼稚園は外れていますよね？それで、今回、新本は新本幼稚園とも連携はするけれども特区には入っていないというんですかね。それで、池田小学校は小学校だけで、幼稚園は入っていないというモザイク的な感じになっていると思うんですが

整合性を持たせた方が、単純に考えればすっきりすると思うんですが。

**山中教育長** ガラス張り市長室の時に、市長が特区をやると言ったわけですよ。具体的には言っていないけども、例えば音楽特区とか。でも、具体的には何も決まっています。やるとしたらもう英語しかないと思ったので、英語は8月終わりが特例特区申請の締め切りですから、昭和と池田は幼稚園も含めてとりあえず出そうと。だから理屈は、前出しをするということです。3年後にやらないといけないものをちょっと前でやるというのが論理です。それと音楽は、そんなに増やせません。英語も増やすし、とするとなかなかしんどい。だから、別の行事の中で、例えば合唱大会とかそういう中で少しやるとか、具体的にはこれから詰めます。要するに、入れ物の話だけ先に出てですね、中身が詰まっていない。いつものことです。とりあえず英語だけ入れる。音楽はどうするかこれから考える。作陽音楽大学とは声楽にしようと話しました。そして、子どもが音楽が好きになるようにして、感性を育てよう。近くにある山とか野原にあるものを使って楽器を作るようなプログラムを考えていただいています。それ以上何もないです。とりあえず英語だけはやるので、ALTを1人要員配置します。それだけでもだいぶ違うと思います。それ以上のことは何も言っていない。

**東学校教育課長** すみません、補足させて下さい。まず地区割りですが、「新本小学校」と書いていないのは、新本小学校プラス新本幼稚園です。池田小学校プラス池田幼稚園というセットで考えていますので、こういう書き方をしております。幼と小はもう一体として考えています。それから、教育課程に関する部分では、この教育課程特例の申請に音楽は入れていません。音楽の時間数を、教育課程内を変更するようなことは何も考えていません。教育課程の中での音楽の授業を何らかの形で充実することを考えたり、教育長が言われたとおり、教育課程外とか学校行事とかで、合唱の取り組みを全校挙げてやるとか、そのレッスンにくらしき作陽大学の先生に来ていただくとか、そういう教育課程以外のところの音楽教育の充実ということです。その捻出の仕方についても、当然国語や算数や理科、社会、その辺りに手をつけるわけではなくて、総合的な学習の時間が70時間のところを35時間にとという形で、3、4年生に導入してそれぞれ英語の授業を増やす。今、維新小、昭和小がやっている方式で行いますので、学力の教科に関わるような部分を減らすということはありません。池田も全く同じでございます。何かやるとしても、教育課程を更に変更しながら、そういう時間をとるということではなくて、プラスアルファの取り組みができたということを考えています。

**下山委員** 新本と池田の特区と聞いた時に、その時に英語は頭の中になかったんですが、今英語の話を知ったら、幼稚園との連携を幼小とするということで、そういうのもあるんだなと思っていました。中学に行った時に他の小学校との差がつくほどのやり方ではなく、3年前倒しぐらいで考えていいと思っています。それから音楽についても、新本は「義民のオペレッタ」等をやって、合唱なんかがいいと思って、新本は音楽がいいかなと思いましたが、池田については、コミュニティスクールというか、あそこはこの間のきらめき交付金の発表

なんかでも、地区を挙げて何かするとか、地区の人が入ってくるということがあるので、そういうコミュニティスクール的な、地域ボランティアみたいなことが入ると、また違う特区の種類ができるかなと思いました。昭和に行きたい子ども達の中にも、バスの便がどっちともあるので、そっちへ行きたいという子もまた増えるだろうなということも感じて、昭和の方も少し解消できるのではないかなと感じています。

**米谷委員長** はい、他によろしいでしょうか？ だいたい今の事務局の説明で随分分かりやすくなったと思います。

**米谷委員長** 次に「地域型保育事業の事前協議の結果について」事務局から説明をお願いします。

**河相こども夢づくり課長** 【事務局説明】

**米谷委員長** ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

**下山委員** この事業に向けて、各事業所に確認をして子ども達の人数は分かっていますが、保育士の募集というか、人数確保ができていますでしょうか？

**河相こども夢づくり課長** 各法人の方でお願いをしているところです。私はちょっと存じ上げているのは、泉リハビリセンターにつきましては、保育を実際に受けている事業所がありまして、そちらに委託をすると聞いておりますので、必ず保育士を確保できると聞いております。また、スマイル保育園も現在募集をかけているということでございます。セレーノ総社につきましては、現在の養護老人ホームに保育士の資格を持った職員が何人かいると聞いておりますし、新たに新規の職員を採用されるという話もありましょから、おそらく確保の方はできると思っております。

**米谷委員長** ちなみに、親御さんが子どもを預けたい場合のそういう募集等はどうなるのでしょうか？

**河相こども夢づくり課長** 来年度の募集につきましては、11月頃から、こども夢づくり課の方ではお受けするようになっていきます。ただ、まだ認可ができていませんので、そちらをご紹介するわけにはいきませんので、募集をした段階で待機になった方に、こういったところもあるんですよとご紹介をさせていただこうと考えているところです。

**米谷委員長** 次に「総社吉備路文化館でのイベント及び音楽イベントについて」事務局から説明をお願いします。

**尾崎文化課長** 【事務局説明】

**米谷委員長** ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

**下山委員** 個人的なことですけど、森文雄さんのコレクションの後期に行きたいと思っています、9月30日までかなと覚えていましたが、10月まで延びたんですか？

**尾崎文化課長** すみません、これが間違っています。9月30日です。

**山中教育長** もうちょっと延ばしたらいいのに。下山先生に行っていたかかないと。

**尾崎文化課長** チラシ等で流しておりますので。

**林委員** 9月になってから私も行ってみたんですけど、ちょうど秋の気配が感じられる日だったので、駐車場から歩いていくのにも非常に楽しめて、あの環境がなんとも言えないぐらいいいですからね。だから、おすすめです。

**尾崎文化課長** 真夏はちょっと来館者が少なかったんですけども、ここ秋にきてどっと増えています。

**山中教育長** 10月23日まで何もしないの？

**尾崎文化課長** もちろん準備もしないといけないので。

**山中教育長** 準備なんてそんなに長くするわけではないので、延ばしては。

**林委員** 文化館は貸し館みたいな感じになっていますが、すごく安い料金で個展を開いて下さるとか。

**尾崎文化課長** 先日、枝松先生がお見えになられて、個展をやりたいと相談されたので、個展をやっただけであればいいなと思っています。

**林委員** 安いですよ？

**尾崎文化課長** 市内の方だと500円。1日500円。6日間で最長なんですけども、準備期間も含めて。3000円いただいたら、1週間はお貸しできます。市外でも1000円で

**米谷委員長** はい、どうもありがとうございました。

**米谷委員長** 次に「教育委員会研修視察について」事務局から説明をお願いします。

**三村庶務課長** 【事務局説明】

**米谷委員長** ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

【質疑・答弁】

**米谷委員長** 委員の皆さんのご要望に応じて下さるいい案をありがとうございます。

**三村庶務課長** それとですね、もう1枚めくっていただきますと、こちらからお聞きしたいことを項目別に並べております。もしこういったことも聞きたいということがあれば、事務局の方にお知らせいただきたいと思います。

**米谷委員長** いつ、一週間前ぐらい前まででよろしいか？いつでも？随時？

**西村庶務課主幹** 相手方にちょっと事前にこちらの方はお伝えさせていただいて、資料等のご準備等もしていただかないといけませんので、早めをお願いします。

**米谷委員長** それでは、後ほどまた事務局の方から質問事項等についての照会があるということですので、何か追加がありましたらお願いいたします。

**米谷委員長** 他に報告事項等はありませんか。

(なし)

**米谷委員長** それでは、次回の教育委員会の日程についてであります。既にご承知のとおり

り、10月22日（木）午前9時15分から開催いたしますので、ご参集願います。

**米谷委員長** この際、11月の教育委員会の日程を調整いたしたいと思いますが、事務局から提案願います。

（11月の教育委員会について日程調整）

**米谷委員長** では、11月の教育委員会は、11月17日（火）午前9時15分から開催いたします。その他の日程について、事務局から何かありますか。

**三村庶務課長** 【事務局報告】

**米谷委員長** では、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

【閉 会】

閉会 午後3時26分